

日経平均株価

4万2718円47銭

▼110円32銭(前日比)

TOPIX

3075.18

▼14.60(前日比)

## 株式市場新聞

www.marketpress.jp

2025

9/1

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



## 建設株再人気化の公算

## 台風シーズン迎えクローズアップへ



9月は台風シーズン

先の大参院選で与党が敗北したことからガソリンの暫定税率が廃止なる可能性が、高いが、その一方でインフラ整備に絡む財源確保も論

8月1日、建設株は、鹿島建設、ゼネコ、大手、う。い。だ。ろ。性。が。高。く。可。能。な。プ。ア。ッ。ズ。ク。ロ。ー。ズ。に。建。設。株。が。特。に。建。9月には、発。する。ズ。ン。到。来。で。災。害。が。多。く。見。え。る。な。か。で。強。さ。を。発。揮。し。て。い。る。建。設。が。改。め。て。人。気。を。集。め。る。背。景。に。は。異。常。気。象。に。よ。る。災。害。が。多。発。す。る。な。か。で。イン。フ。ラ。整。備。が。急。務。に。な。っ。て。い。る。こ。と。も。背。景。に。あ。る。

日経平均の日足チャート



## インフラ整備へ新税検討

日経平均が4万3000円を突破し史上最高値を更新する過程で主力銘柄では半導体や防衛、エネルギー関連とともに物色されているのが建設株。内需依存度が高い故にトランプ関税への影響が皆無なうえ、財務内容が安定している企業が多く、国土強靱化を進める上で欠くことのできない企業が多い。9月は台風シーズンであることに加えて、政府はガソリン減税の代わりにインフラ整備に充てる新税の検討に入っており、建設株が再び人気を集める公算は高い。

議になっ  
てい。与  
野党と

2、大林組(1802)、清水建設(1803)も高値圏で強い動きを続けている。地盤改良に強みを持つ不動テトラ(1813)、ライト工業(1926)も台風シーズンは再度脚光を集めよう。台風関連としてはウェザーニューズ(4825)やマンホールやライン導水ブロックなどのコンクリート製品を手掛けるイトーヨーギョー(5287)も注目しておきたい。

## 8月第3週の動意銘柄

## BTMがストップ高

## ヘッドウォータースと協業

連休明け18日、BTM(5247)がストップ高。15日、ヘッドウォータース(4011)と生成AIをはじめとするAIエンジニアリング領域で協業を本格化させると発表したことが材料視された。

ロジザード13%営業減益

ロジザード(4391)が急反落。15日の取引終了後、26年6月期の業績予想を発表、連結営業利益で12・9%



## AppBank開発契約

19日、App Bank(6177)が連続ストップ高。18日午前、東京大学発AIスタートアップの2WINNS、資本業務提携先のPLANNA(福岡県福岡市)と企業や大学などの教育機関向けAIソリューションの

開発契約を結んだと発表。同日、アスチア(4886)が急反発。ダルトン・インベストメントから「大規模買付行為等趣旨説明書」を受け取ったと発表するとともに、子会社のあすか製薬がMICINと過敏性腸

症候群治療用アプリの共同開発・販売契約を結んだと発表したことが買い手掛かりになった。消化器領域で新しい治療選択肢の提供を目指し、共同で上市に向けた準備を進める。

## 創建エース上場廃止

創建エース(1757)が急落。東証が9月19日付で上場廃止すると発表したことから投げ売りが殺到した。8月1

## 京都友禅黒字引続き好感

8日付で整理銘柄に指定されている。20日、京都きもの友禅ホールディングス(7615)がストップ高。13日に26年3月期の第1四半期累計決算を発表、連結営業利益で

1億600万円(前年同期3億1600万円の赤字)となったことが引き続き好感された。一般呉服などについては、既存顧客への接点強化や収益管理、新規顧客獲得施策の積み重ねが着実に成果を見せている。



## 正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は小幅ながら反発しました。日経平均は前の週から85円上昇しています。ジャクソンホールでのパウエルFRB議長講演を受け9月利下げ観測が強まり、米国株市場でダウが最高値を更新。週初は朝高のあと、アの決算発表を前に週央まで膠着感を強め、アの決算を先行のあと、上、イベンの動きにな

## 高値抜け期待の強い銘柄狙う

今週は週末に前にも注目の指定まらな展開の利下げ期待値は堅く、個別株物色は盛り上がり上がると考えられ、引き続き高値抜けが期待できると強い銘柄を狙いたいと思います。花咲翁

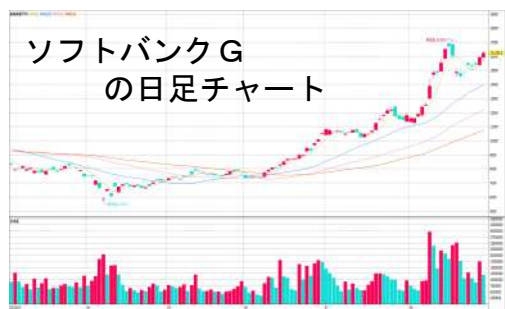
# SBGが大幅続落

## 日経平均230円押し下げ

ソフトバンクグループ（9月1日）が大幅続落。日経平均株価は230円押し下げ、SOX指数も1.8%以上下落した。ここまでの急ピッチな上昇から利益確定売り優勢の動きとなった。同社株1銘柄で日経平均を230円超え下押しした。

**NCS大規模自社株買**  
NCS&A（9月09）が急伸、年初来高値を更新した。発行済株式の8.65%にあたる140万株、21億円を上限とする自社株取得期間を設定すると発表、取得期間はきょう20日から26年7月まで。併せてきょうの東証の自己株式立会外買付取引で発行済株式数の3.71%にあたる60万株を上限に買付け委託を行うと発表しており、大規模自社株買いによる株価浮揚効果を期待した買いを集めた。発行済株式数の16.67%にあたる300万株の自社株を売却することも発表した。

## ステイブル揃ってS高



21日、Spee（4499）やインタートレード（3747）、電算システムホールディングス（4072）のステイブルコイン関連銘柄が揃ってストップ高。アステリア（3853）がJPYC発行の日本円建てステイブルコインの決済データ連携ツールを開発すると発表したことで連想買いが広がった。Speeは子会社を通じてステイブルコイン関連事業、インタートレードは金価格連動型ステイブルコインの取引システムを手掛け、電算システムはステイブルコイン決済送金基盤を構築している。

## 宝ホールディングスストップ高

宝ホールディングス（2531）がストップ高。米投資ファンドのバリュアクト・キャピタルが9.84%を取得したことが判明した。純投資と重要提案行為などが目的。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

## 松井証券の一日信用取引

手数料 0円 金利・貸株料 0～1.8%

取引  
コスト

プレミアム  
空売り

独自  
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック



# 三井化学大幅反発

## ナイジェリア財閥と覚書

21日、三井化学（4183）が大幅反発、年初来高値を更新した。日本経済新聞電子版で「20日開幕した第9回アフリカ開発会議（TICAD9）で、製油所を運営するナイジェリアの財閥大手ダンゴテ・グループと覚書を結んだ」と報じたことが材料視された。ダンゴテはエネルギーや食品、不動産などの事業を展開しており、基礎化学品や樹脂、包装

材など化学品全般で連携を深める方針で、現地生産に向け技術供与や合弁会社の設立を検討するという。

## トレドワクス信用規制

週末22日、TORICO（7138）が連続ストップ高。20日に幻冬舎と暗号資産・ブロックチェーンなどWeb3領域で新規事業の創出に向けた業務提携すると発表し、引き続き続き材料視された。幻冬舎の専門

## TORICO連続S高

週末22日、TORICO（7138）が連続ストップ高。20日に幻冬舎と暗号資産・ブロックチェーンなどWeb3領域で新規事業の創出に向けた業務提携すると発表し、引き続き続き材料視された。幻冬舎の専門

## 8月第4週の動意銘柄

## 堀田丸正一転してS安

週明け25日、堀田丸正（8105）が一転してストップ

安。親会社のRIZ APグループ（2828）が株式の30

%をBakkt Opc co Holding sに譲渡と発表したことで、デジタル資産関連との評価で上値追いが続いている

たが、上昇のスターラインが100円以下だったことから、買いが止まると一転して高値警戒からの投げが積み重なった。

芝浦機械（6104）が一段高。香港の投資ファンド「オアシス・マネジメント」が同社株式を5・23%保有していることが22日に提出された大量保有報告書で明らかに。思惑買いを誘った。

米Edg e r w a r d資本業務提携に向けた基本合意を行うと発表した。F o r w a r d社は先端的な量子暗号通信技術分野でグローバルに事業展開、公共の安全と国家安全保障のため

め的人工知能を開発している。日本国内でのF o r w a r d社のP Q CをはじめとしたA Iソリューション販売、ライセンス供与とサービス&メンテナンステキ活動とを独占的に進めるため、合弁会社を設立する。

B a k k t O p c oはデジタル資産（暗号資産／仮想通貨など）の売買、管理、決済などのプラットフォームやサービスを提供している。

## 芝浦機械オアシス保有

芝浦機械（6104）が一段高。香港

## 鬼門の9月相場

8月の月足は陽線形成で4月から5カ月連続の上昇となりました。移動平均線を確認すると6カ月線と12カ月線がゴールデンクロス。これは2023年3月以来のことですが、この時は3月末の2万8041円から翌24年7月の4万2426円高値まで51%もの上昇となりました。

また、月足で5カ月連続陽線というのは珍しく、遡ると2015年1月～5月以来、10年ぶりのことです。それ以前の連続陽線記録を調べてみると、2012年8月から13年4月までの9カ月連続陽線、2005年5月から6年1月の9カ月連続といったように5カ月連続は更に陽線を伸ばすケースが見られ、なにかしら大きな相場へ発展していく可能性が出てきました。

今週から9月相場になります。戦後の9月相場は34勝42敗と唯一負け越している鬼門の月ですが、押し目は買い場だと考えております。

日々勇太郎



## 転ばぬ先のテクニカル

## 自動車分野中心に新用途を開拓

VOC発生を抑えられることから接着剤代替品として期待されている。ただ、夏場の車内温度は約70℃に達することもあり、耐熱性で十分な効果を發揮できなかった。新製品は粘着剤と熱に強いロジン成分をより多く配合できる設計により相溶性を高め、添加可能な粘着付与剤の量が大幅に増えたことで耐熱性が大幅にアップ。生産効率の改善や環境負荷の低減にもつながる。耐熱性と相溶性を両立した粘着付与剤はこれまでになく、新しい価値を創造していく。

ハリマ化成グループ（4

『理想』を通じて時価総額100億円の企業を目指す」を策定したと発表したことが好感された。

## 新ビジョン策定を好感

25日  
ウィルソン・ラーニング・ワールドワイド  
(9610)がストップ高  
新ビジョン「成長モデル」  
『L+E』をTC構



新ビジョンを軸に、教育インフラ企業への進化と事業拡大を加速させ、3年で売上高50億円、営業利益5億円を目指す。

## メルセデス年金基金売却報道

26日、日産自動車（7201）が急落。ドイツのメルセデス・ベンツグループの年金基金が保有する日産自株式3・8%分んじあたる1億4010万株（約3億4600万ドル相当）を売却すると報じらことで受給悪化懸念の売りが膨らんだ。売り出し価格は1株341・3円と前日終値から

DefコンサルS高  
itting(483  
3)がストツプ高。  
新たな事業であるビットコイントレジャー事業を開始することを発表した。コ

27日、ACC  
CESS(48  
13)が大幅  
続落、一時ス  
トップ安まで  
売られた。東  
証が27日か  
ら特別注意銘  
柄に指定し、  
上場契約違約  
金の徴求を受  
けると発表し  
たことが嫌気  
された。6月  
30日に不適

切な会計処理に絡む特別調査委員会の調査報告書を受けてのもので、重要性の高い決算情報について長期間にわたり誤った情報を公表し続けたことを指摘され、不

ンサルディング事業の着実な成長と並行して、今回の戦略を第二のビジネスの柱とし、中長期でのビットコイン保有を前提としながら、早期かつ相当量の備蓄を進め、保有するビットコインの運用などによるインカムゲインも設計し、中長期

## TORICO(7)

安が拡がっている。

461) が大幅反落  
100万株の公募に  
よる株式売り出しを  
発表したことで1株  
当たりの価値の希薄  
化懸念が台頭した。

での企業価値向上に  
資する保有・運用計  
画を進めていく。

0日に幻冬舎と暗号資産（仮想通貨）・ブロックチェーンなどWeb3領域で新規事業創出に向け、業務提携すると発表したことが再び材料視された。幻冬舎の専門メディア運営やコンサルで培ってきたWeb3領域の経験とノウハウを生かし、同社の暗号資産ブロックチェーンの既存事業への活用支援や新規事業の創出を図る。

## 不二製油の押し目狙う

ページ  
会員  
した。いま

月末の調整売りがピークを迎え、28日は寄り付きから主力株中心にまとまった売りとなり、大きく下落してはじまったのでした。その売りが一巡して買戻しする展開になり、戻す動きが強まったことになりました。

また、米国でAI株の主力銘柄のエヌビディアが好決算を発表したことで半導体関連が戻す動きがみられました。また、保険料の引き上げを好感して損保銘柄が買われていました。そのほか東電HDDが切り返すなど上げ基調を

で紹介の井関農機(6310)が予想通り上げて2000円台に接近しました。三菱重工(7011)も売り一巡の後は急速に戻す展開になりました。ほば底入れしたと考えられ、今後戻す動きが続くそうです。

また、東京海上(8766)が保険料の引き上げがキッカとなって反発に転じており、引き続き上値を追っていくことが予想されます。大手不動産も反発していくと思われ、住友不動産(8830)、東京建物(8804)も注目されそうです。

## 三菱重工も底打ちへ

また、千代田化工(6366)が上値を追う展開になり、400円台を定着する可能性があります。不二製油(2607)が新中期計画を発表し急伸しました。急伸後の反落を待つ狙いもある一策です。

## 高野恭壽の株式情報



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

高野恭壽(たかのやすひさ)氏は、株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ

https://marketpress.jp/kabu-takano/

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。

公式ホームページ

https://marketpress.jp/kabu-takano/

## ニコンの日足チャート



## ニコンがストップ高

## 欧大手眼鏡メーカー出資引上げ提案

27日、ニコン(773)がストップ高となった。ニコンが「レイバ」ブランドなど大手眼鏡メーカーの欧州の大手眼鏡メーカーに、率引き上げの提案を受けていることが、26日分かったとブルームバーグが報じた。両社の関係強化

## 大チタ、邦チタ急伸

## ボーイング向け需要拡大期待

を目的に20%程度まで引き上げることという。

28日、大阪チタニウムテクノロジーズ(5726)と東邦チタニウム(5727)が急伸。米ボーイングが最大50機の航空機販売契約の最終合意に向けて中国と交渉中であることが報じられており、具体化すれば航空機向けチタンの需要が拡大するとの期待が再度高まった。半導体安寄りの後上昇

## コンヴァノ急反発

アドバンテスト(6857)やディスコ(6146)、東京エレクトロン(8035)などが半導体関連が安寄りのあと上げに転じた。エヌビディアが好決算を発表したものの、時間外で株価が下落したことで売りが先行したが、イベント



# 好需給は当面継続

## 高配当と還元銘柄の押し目

光世証券 エグゼクティブ・マネージャー

西川 雅博 氏

日経平均は一時の勢いが止まったとはいえ、底堅い動きが続いている。米国ではダウとS&P 500が最高値を更新し世界的にリスクオンの様相である。FRBにも攻撃を強めるトランプ大統領の強引さは相変わらずだが、市場の反応を見る限りトランプリスクは明らかに後退している。むしろ、建前論で覆われた従来の不明朗さよりも、単純明快な本音の情報発信を良しとしている感さえある。狙い通りかは別にして、株式市場にフレンドリーなトランプ大統領にとっては好都合の流れだ。気を良くしてトランプ流がさらにヒートアップする可能性があるが、リスクを過大評価すべきではないだろう。

1996年から1998年にも政策金利が現在のように向感が定まらず高止まりした局面があった。インフレ抑制のための利上げが1995年1月に6・0%でピークアウトした後利下げに転じたが、1996年1月に5・25%まで低下してから1998年9月までは5%台で横ばいで推移した。この間S&P 500は600から1200まで短期間で2倍の大幅上昇となっている。

絶えず利下げ期待がくすぶる状況が株高の背景になった可能性がある。政策金利の見通しから現在も似た状況と言えなくもないだろう。当時は1998年8月のルーブル危機で一旦20%安の調整が入ったが、利下げ効果もあってその後のITバブルにつながる流れとなった。金利が安定的に高止まりしている状況は穏やかなリスクオンが持続する背景になり得る。必ずしも市場が期待する継続的利下げが株価上昇の条件ではないと考える。

日本株に関しては、外国人買いと自社株買いによる好需給が当面は継続するだろう。9月の米国株はややパフォーマンズが悪い傾向があり、もたつく局面も考えられるが、高配当と株主還元銘柄の押し目買いが基本戦略だろう。個別には小野薬品工業(4528)、JFEホールディングス(5411)、東京ガス(9531)など。



9月のFOMCを前にして足元米国の景気・インフレ指標に明確なトレンドが見られない。ジャクソンホールでのパウエル発言から9月の利下げはほぼ織り込まれているが、今後の利下げペースについては全く不透明だ。パウエル議長はかつて、1970年代にFRB議長を務めたアーサー・バーンズ氏が当時のニクソン

## 相場展望

ズ氏が当時のニクソン

## 造船関連が軒並み高

### 国策追い風とする記事を材料視

週末週、米29日、三井E&S(7003)が上場来高値を更新したほか、名村造船所(7014)やエンジンコーポレーション(6016)、内海造船(7018)、古野電気(6814)、中国塗料(4617)など造船関連が軒並み高



材料視し、関連銘柄に買いが広がった。米国が海事産業再生へ大統領令に署名、国内も政府が造船業再興に向け支援に動き始めたとしており、三井E&Sについては二元燃料エンジンの収益貢献に期待が高まっているという。

**吉野家はすき家値下げ**  
吉野家ホールディングス(9861)が急反落。ゼンショーホールディングス(7550)傘下のすき家が牛丼など一部商品を9月4日から値下げすると発表したことを受け、客数減少が警戒された。値下げは約11年ぶりで牛丼並盛を480円から450円へ30円引き下げる。異物混入事件の影響が残る消費者の節約志向が高まるなか客離れを防ぐ。松屋フーズホールディングス(9887)などの同業に加え、価格競争激化懸念からゼンショーHLDも安い。

# チャートから読む 騰落銘柄

## 野村マイクロ(6254)



8月18日に3435円の年初来高値更新後に調整していたが、3000円割れかつ25日線接近でもみ合った後に急速に切り返す。米国を中心に大型案件獲得へ期待が高く、27年3月期にV字型回復へ期待。

## 名村造船所(7014)



8月25日に最高値3675円を付け、一呼吸入れてすかさず切り返す。国策に乗る造船準大手で、中大型船に優位性を持つ。貸借倍率0.26倍、信用倍率1.42倍の好取組みをテコに青空相場を一段高へ。

## DyDo(2590)



26年1月期予想を最終損益で30億円の赤字(前期38億400万円の黒字)と発表すると2500円割れまで一気に値を崩す。24年8月以来の安値水準となり、次は22年11月の安値2245円を意識。

## ACCESS(4813)



特別注意銘柄指定と上場契約違約金徴求を嫌気、急落の後も下げ止まる気配はない。長期にわたり誤った決算情報を公表し続けたことで、経営の不信性が大きく棄損、上場来安値479円が視野に入る。



## 星野三太郎の

## 株街往来

～「安・近・短」の時代～

話で鑑賞を中断することが多く、集中できないことが多々ある。映画館に入ってから上映時間中の2、3時間はスマホの電源を切って鑑賞すると没入感が高まった。スーパーマンなどのSF洋画よりはやはり、邦画の方が感情移入し易い。テーマパークや万博などに行くと1日はそれで時間が潰される。近隣のイオンシネマで映画鑑賞なら「安・近・短」で楽しめるというところだろう。

観戦券を頂いてプロ野球を観戦することもあったが、筆者が観戦した試合は4時間を超えていた。長時間費やして応援しているチームが負けてしまうと疲れが出てしまう。これらの時代はやはり「安・近・短」を追求しないと生き残れないだろう。



## New product

**カルビー** 全国コンビニで期間限定  
じゃがりこ ヤンニョムチキン味Lサイズ

ヤンニョムチキン味Lサイズ



カルビー（2229）は、クセになる甘辛ソースと、ピリ辛コクうまな味わいが楽しめる「じゃがりこ ヤンニョムチキン味Lサイズ」を全国のコンビニエンスストアで期間限定発売している。

甘辛いヤンニョムソースをイメージした味わいとチキンソボロを練り込んだ再現度の高いヤンニョムチキンの味わいが楽しめる。パッケージは味を連想する黄色をベースとし、韓国風ポップフォントで味名を表記し韓国料理らしさを演出。このフレーバーは、2023年にテスト販売をしたところ顧客から「甘辛い味とチキンがベストマッチ」「クセになる。ハマりそう！」など好評だったため、2年ぶりに発売する運びとなった。「じゃがりこ」が好きな人はもちろん、韓国料理が好きな人も楽しめる。

## 液化ガスプラントが稼働

エア・ウォーター

インド南部エリアの需要に対応



チェンナイ工場の液化ガス製造プラント

インド南部のチェンナイにあるナドミルに建設された工場内には、エア・ウォーターの液化ガス製造プラントが稼働している。

液化ガス製造プラントが完成し稼働を開始した。これまで主にベッラリ工場（カルナータカ州）で製造する産業ガスをチェンナイを含む南部エリアの顧客に供給してきたが、年々高まるガス需要に対応するためチェンナイ工場内に液化ガス製造プラントを新設。サプライチェーンの強化により、チェンナイ周辺の製造業向け産業ガスや医療ガス需要を獲得していく。チェンナイ工場の液化ガス製造プラントは、同社グループがインドにおいて初めて手がけたプラントとなる。

企業レター

エア・ウォーター（4088）グループのエア・ウォーター・

## 潮流

## 防衛産業の歴史的転換点

## 本格的な国際進出へ舵を切る

marKet / bAnk

日本の三菱重工業製の艦艇をベースにした新型艦を採用すると発表した。周辺地域の緊張が高まり、防衛産業への需要が急騰するなか、この決定は日本が主要な武器輸出国となるための大きな一歩となる。

日豪の契約締結は2026年初頭になると見られている。建造に投じられる費用は推定65億ドル（約9500億円）に達し、日本にとってはこれまでで最大規模の防衛装備品の輸出となる。これまで日本の防衛装備品輸出は限定的だったが、今回の契約はフィリピンへのレーダー輸出に続く2例目であり、完成品の大型輸出としては初である。

日本が今後、軍艦やミサイル、レーダーシステムを輸出する際のモデルケースにもなる。日本の防衛産業にとって歴史的な転換点だ。これにより、日本の軍事関連企業は国内中心の事業構造から、国際市場への本格的な進出へと舵を切る可能性が高まる。これから日本の軍事企業

2025年8月、オーストラリア政府は同国海軍の次期フリゲート艦に、日

は、世界市場に進出する機会を積極的に模索するだろう。

官民連携による輸出体制の整備が進めば、三菱重工以外の企業（川崎重工、IHIなど）も海外展開を加速できる。高性能・高信頼性の日本製装備品が

国際市場で評価されれば、ブランド力が確立される。防衛産業が経済安全保障の中核として位置づけられ、国家戦略の一翼を担う可能性がある。

日本経済にとって象徴的かつ実質的なインパクトを持つ。防衛装備品の完成品輸出としては過去最大規模であり、単なる企業収益の増加にとどまらず、産業構造や国際的な経済戦略にも波及効果が期待される。戦略物資・技術の国際展開が進み、外交と産業政策が連動する新しい経済モデルが形成される。

日本の輸出は自動車や電子機器が中心だが、防衛装備品が新たな柱として加わることで、輸出産業のポートフォリオが広がる。今回の契約は未来に向けた新しい日本経済のビジョンを描く第一歩だ。日本経済の構造転換を促す可能性を秘めている。

潮流銘柄は三菱重工業（7011）、三菱電機（6503）、日本製鋼所（5631）。

を  
行  
う。

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。



岡山 憲史氏（株式会社マケットバンク代表取締役）のプロフィール  
1999年2月日本初  
の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

## 日本経済構造転換促す







敬院先物ディーラー

## ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



16日～17日に米FOMC

NYダウの日足チャート



いので、下回って引けてくると調整は長引きそうである。その際に下値は8月7日に窓埋め(4万円)が入ってこよう。また、

騰落レシオは127・96%と8月5日以来の水準まで収まってきたが、まだ過熱ゾーンで推移している。FOMCの利下げが下支えする展開だが、買い材料に乏しいため上値の重い展開は継続すると思われる。今週のレンジは4万1500円～4万3000円を想定する。節目近辺の押し目買いに徹したい。(ハチロク)

先週の日経平均は前週末比約85円高と上昇、週足では陰線となったが、月間では5カ月連続陽線となった。注目のジャクソンホールでのパウエル議長の講演内容は、9月の利下げを強く意識する形となり米国株は上昇、日本株も上昇したが、寄り後は上値を抑えられる展開となった。更にエヌビディア株の決算では市場の予想を上回る好決算だった

たが、期待値が高過ぎたためか発表後、売られる展開となった。しかし、「エヌビディアショック」とまではいかず、買いは入らないが大きな売りもない気迷い相場となった。結果、週足では辛うじてプラスとなり、月間では5カ月連続の週足陽線となった。8月相場は月間で約1648円(4%)上昇、過去最高値を更新したこの月の売買代金は、海外勢の買いが流入し過去2番目の大きさとなった。

製造業景況感指数、4日にADP雇用統計、5日に雇用統計が発表される。8月には速報値の数字が予想外に訂正され、相場が混乱したため注目度は高まっている。今週はイブニング取引で乱高下しそうな週である。チャートでは25日移動平均線(4万2034円)を強い下値抵抗ラインとして意識して推移している。今年は5月以降、引け値で25日移動平均線を下回ったことがない

日足基準線(4万1863円)、週足転換線(4万1530円)も意識される水準であろう。一方、上値は転換線(4万3007円)、先週の高位(4万3201円)が挙げられよう。

日経平均の月足チャート



# 上値の重い9月相場

## 米経済指標で乱高下も

今週から9月相場入りである。今月16日～17日に米FOMCが開かれるため、その前の経済指標の発表に相場は振り回されそう。

2日に米ISM



## 記者の視点

## 相場見通し

## 米8月雇用統計待ち

## 循環物色で指数は値固め

8月最終週は27日のエヌビディア決算待ちから週前半は膠着感の強い展開で、エヌビディアの決算が確認されると28日は売り一巡後に戻す展開になり日経平均は300円超高く引けた。

注目されたエヌビディアは先月までの3カ月間の決算で売上高は前の年の同じ時期と比べて56%増の467億4300万ドル、日本円でおおよそ6兆8900億円だった。米中对立によって中国向け製品の輸出の先行きが懸念される中、世界的な生成AIの開発競争に支えられ、データセンター向けの半導体の需要が好調で過去最高かつ市場予想を上回る内容だった。

ただ、データセンター向けが市場予想を下回っ

## 当面のスケジュール

- ・ 1日 4-6月期法人企業統計  
中国8月RatingDog製造業PMI  
休場：米(レーバーデー)
- ・ 2日 8月マネタリーベース  
10年国債入札  
米8月ISM非製造業景況指数
- ・ 3日 米7月JOLTS求人件数  
ページブック(米地区連銀経済報告)
- ・ 4日 米8月ADP雇用統計  
米7月貿易収支  
米8月ISM非製造業景況指数
- ・ 5日 7月毎月勤労統計調査、7月家計調査  
7月景気動向指数  
米8月雇用統計
- ・ 8日 4-6月期GDP確定値  
8月景気ウォッチャー調査  
中国8月貿易収支
- ・ 10日 中国8月生産者物価、中国8月消費者物価  
米8月生産者物価  
米10年国債入札
- ・ 11日 7-9月期法人企業景気予測調査  
8月国内企業物価指数  
ECB定例理事会(ラガルド総裁会見)  
米8月消費者物価  
米8月財政収支(関税含む)
- ・ 12日 メジャーS&P算出日  
米9月ミシガン大学消費者マインド指数

たことやこの好決算は大方織り込まれていたことからエヌビディアは発表直後の時間外取引で下落していた。市場の期待値が高過ぎる故の動きだけに、引き続きAIの成長をテコに半導体含めて関連銘柄が物色されていきそう。

今週は9月2日に米8月ISM製造業指数、4日に8月ADP雇用統計、5日に8月雇用統計が発表される。先月はトランプ米大統領の8月1日含めてテマ株の循環物色で値固めの展開だろう。



領が米労働統計局(BLS)のマッケンターフアー局長を解任した。同局長が最新の雇用統計を25万人以上、下方修正したことが理由とされており、今回は新局長の発表がどう反応するか注視されるが、市場ではADP雇用統計を重視することになりそう。日経平均では4万3000円突破には新たな材料が必要。

三菱商事が千葉と秋田県の3海域での洋上風力発電計画から撤退を決めた。11キロワットアワー1116円と政府が設定した上限価格29円を大幅に下回る価格の最安値で受注を総取りしたものの、建設費や資材価格の高騰で採算が取れなくなつた。計画の行き詰まりは周知されており、市場の受け止めは冷静だった。再生エネの柱とされる洋上風力導入の遅れは必ず返ってくるかも知れない。インフレが進む現状、低コストで高効率のクリーン電源開発が求められる。

## 編集後記

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らたたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任をお願いいたします。